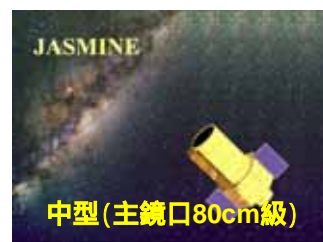
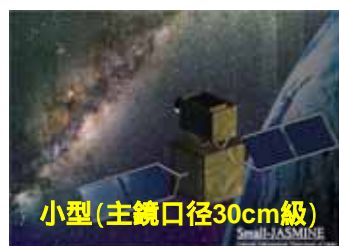
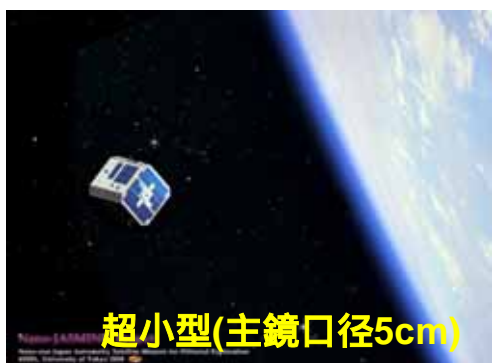


Nano-JASMINE (ナノジャスミン) について

- 赤外線位置天文観測衛星計画 (JASMINE計画シリーズ) の最初の人工衛星
- 主鏡口径5cm、重さ約35kg、大きさ50cm立方程度の超小型衛星
- 近赤外波長域($0.6\mu\text{m} < \lambda < 1.0\mu\text{m}$)で数ミリ秒角精度の全天位置天文観測を行う
- 世界初の近赤外線波長域での全天位置天文カタログ
- 世界最高クラスのヒッパルコスカタログと同程度の観測精度

将来計画



Nano-JASMINE
主鏡口径5cm
~3mas 全天 zW-band
2011年8月
35kg

小型JASMINE
主鏡口径30cm級
10 μs パルジ数平方度
2016年頃 Kw-band
400kg

中型JASMINE
主鏡口径80cm級
10 μs パルジ全域
2020年代 Kw-band
1~1.5t

従来は、大学や国立天文台で開発した科学衛星の観測データについては、主にJAXAが宇宙科学の研究者向けに受信と配信を行っていました。

Nano - JASMINEでこの従来からのデータ配信に替え、文部科学省宇宙利用促進調整委託費を利用して、大学や国立天文台から、宇宙科学の研究者以外の異分野の研究者や民間企業などに科学衛星の観測データの利用が広がるよう工夫したデータ配信を行う予定です。

各機関参画状況:

国立天文台: 衛星全体の仕様決定、観測装置(ミッション部)の開発
データ配信、データ解析

東京大学: 衛星システム(無線機、姿勢制御、電源など)全般の開発
データ受信システム

京都大学: 検出器のオンボード処理関連
データの受信・解析システムの構築

